

2008年（平成20年）自転車生産・輸出入・出荷状況

財団法人 自転車産業振興協会

1. 最近の需給状況

1. 2000年に1,000万台を突破して以後は毎年1,100万台前後で推移してきたが、08年1,013万台で近年は減少傾向にある。
2. 我が国の自転車適正需要は800～900万台といわれ、100万～200万台が過剰供給となっている。
3. 過剰供給の主な要因は次のとおり。
 - ◆自転車の販売価格低下による消費者の購入機会増加
 - ◆品質低下を原因とした使用期間短縮による購入頻度の上昇
4. 2008年における国産車の平均単価（工場集荷価格）は26,343円で対前年比16%アップとなり、最大要因は高価格の電動アシスト車が漸増傾向にあつて生産シェアを拡大（2004年：7%→2008年：25%）したためである。
5. 輸入車の平均単価も、中国車の価格上昇により上昇傾向にある。

表-1 最近10年間の自転車国内生産・輸入、国内出荷の推移

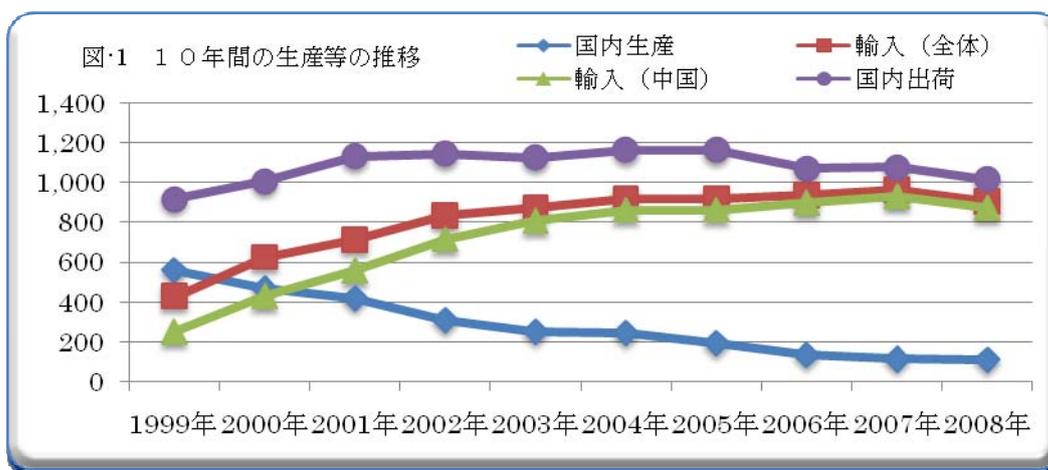
単位=万台

区分	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
国内生産	559	468	418	308	252	245	193	133	114	110
輸入(全体)	426	623	709	833	870	914	914	934	960	903
輸入(中国)	249	426	554	713	805	860	881	895	928	869
国内出荷	985	1,091	1,128	1,140	1,122	1,159	1,107	1,067	1,074	1,013

統計出所：経済産業省機械統計、財務省貿易統計

(注1)電動アシスト車は国内生産には含むが、輸入には含まない

(注2)国内出荷は国内生産と輸入(全体)を加算したもののだが、千未満の端数処理により、これらの和と一致しない場合がある



2. 生産

08年における自転車生産台数は1,095千台で、前年の1,136千台に対し4%（41千台）の減

少となった。一方、金額ベースでは 288 億 4,600 万円で、前年の 252 億 500 万円よりも 14% (36 億 4,100 万円) の大幅アップとなっている。

車種別では、軽快車が 647 千台で全体の 59%を占めて最も多く、次いで電動アシスト車 274 千台 (25%)、ミニサイクル 77 千台 (6%)、特殊車 46 千台 (5%)、子供車・幼児車 46 千台 (5%) と続き、マウンテンバイクは僅か 4 千台 (0.4%) となっている。

平均単価は全車種とも前年を上回っており、全体では 26,343 円と前年の 22,188 円よりも 4,155 円の上昇となった。前述の生産金額の増加要因は、生産数量が多い軽快車の価格アップと高価格の電動アシスト車の増産である。電動アシスト車は、軽快車や子供車・幼児車等が減産傾向にあるなかで、唯一増産傾向にあり、安定的に推移していることが窺える。

表-2 車種別生産の状況

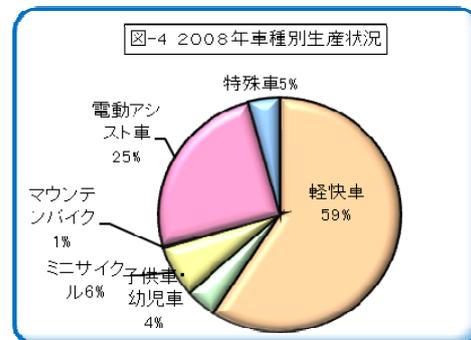
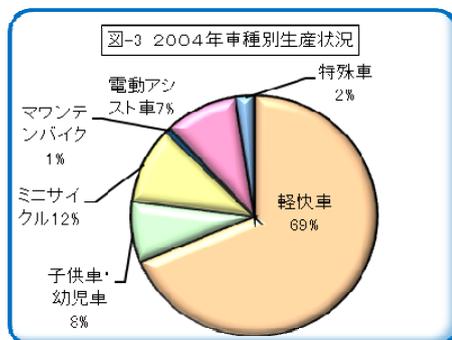
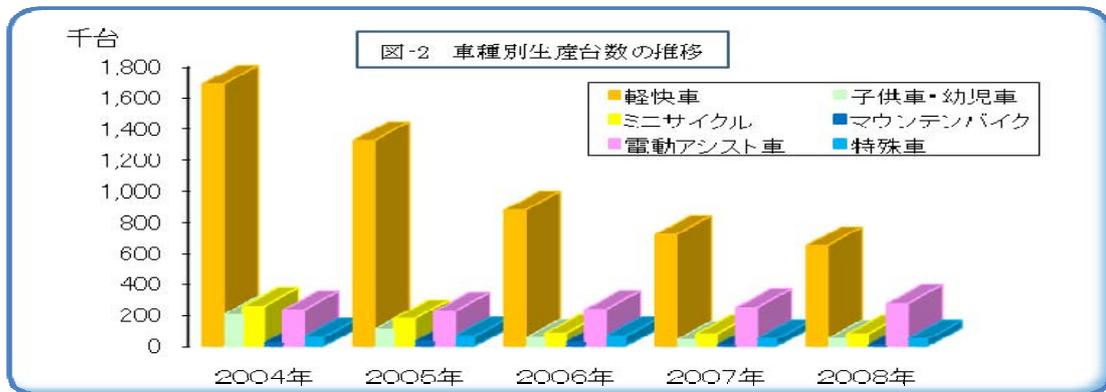
(単位:数量=千台、金額=百万円、平均単価=円)

車種	2004年	2005年	2006年	2007年			2008年		
	数量	数量	数量	数量	金額	平均単価	数量	金額	平均単価
軽快車	1,688	1,325	876	720	9,713	13,490	647	10,356	16,006
子供車・幼児車	201	108	52	39	372	9,538	46	532	11,565
ミニサイクル	255	177	82	78	978	12,538	77	1,024	13,299
マウンテンバイク	18	29	24	5	118	23,600	4	102	25,500
電動アシスト車	233	224	236	248	12,594	50,782	274	15,041	54,894
特殊車	59	65	65	46	1,429	31,065	46	1,791	38,935
合計	2,455	1,926	1,335	1,136	25,205	22,188	1,095	28,846	26,343

統計出所:経済産業省・機械統計

(注1)千未満を端数処理したため、全車種の和と「合計」が一致しない場合がある

(注2)平均単価は、表中の金額及び数量の数値により算出したものである



3. 輸 出

昨年、対前年比 157%と大幅な増加を示した自転車輸出だが、08 年はその勢いがやや鈍り、

対前年比9%増の2,283千台となった。一方、金額ベースでは37億7,200万円と前年の30億3,800万円に対し24%のアップとなり、平均単価（FOB：本船渡し価格）も前年の1,446円から1,652円と14%上昇した。

仕向地別では、ベトナムが536千台と全体の22%を占めて最も多く、次いでカンボジア475千台、ガーナ316千台、タンザニア295千台、中国144千台と続いており、アジア向けが1,647千台でアフリカ向けの634千台と合わせると全輸出の99.9%に及んでいる。輸出単価と仕向地からも分かるように、自転車輸出の殆どは日本で消費され使用された中古車である。

前年と比べて増加しているのは、タンザニア（140%増）、ガーナ（44%増）及びベトナム（23%増）向けであり、対照的に著しく減少したのは北朝鮮（66%減）及び中国（63%減）向けである。輸出が急減したこれら2カ国向けを中心としたアジア向けは前年よりも6%ダウンとなった。これに対しタンザニア及びガーナを中心とするアフリカ向けは前年よりも78%アップとなり、前年に引き続き増加傾向にある。

表-3 仕向地別輸出状況

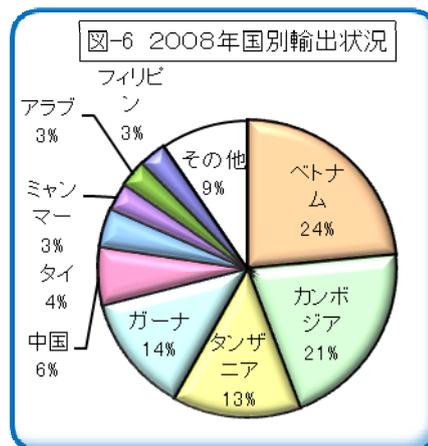
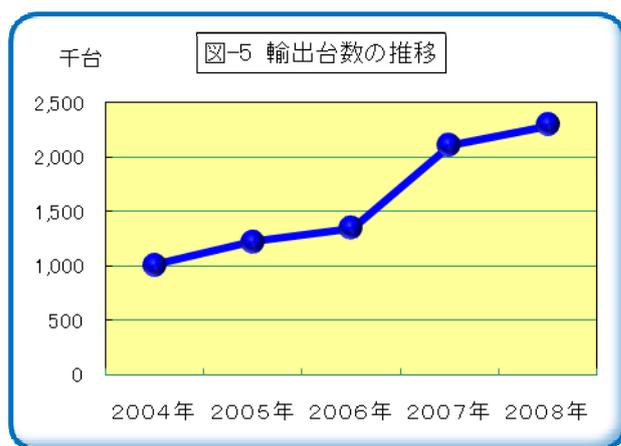
（単位：数量=千台、金額=百万円、平均単価=円）

国名	2004年			2005年			2006年			2007年			2008年		
	数量	数量	数量	数量	金額	平均単価	数量	金額	平均単価	数量	金額	平均単価	数量	金額	平均単価
ベトナム	1	0	75	437	592	1,356	536	876	1,634						
カンボジア	371	498	441	454	587	1,293	475	686	1,444						
ガーナ	135	135	218	219	260	1,189	316	563	1,782						
タンザニア	14	25	64	123	199	1,613	295	518	1,756						
中国	4	2	16	385	608	1,576	144	245	1,701						
タイ	34	39	51	99	140	1,417	97	175	1,804						
ミャンマー	16	51	67	24	29	1,208	69	109	1,580						
アラブ	5	12	15	39	75	1,923	68	117	1,721						
フィリピン	19	21	34	47	61	1,298	67	81	1,209						
その他	410	438	359	269	477	1,773	216	403	1,866						
合計	1,009	1,221	1,340	2,096	3,028	1,446	2,283	3,773	1,653						

統計出所：財務省・貿易統計

（注1）「その他」は、合計から表中の各国の数値を差し引いて算出したものである

（注2）平均単価は、表中の金額及び数量の数値により算出したものである



4. 輸入

輸入状況をみると、数量ベースでは9,034千台で対前年比マイナス6%（569千台）となり、96年以降で初めての減少となった。一方、金額ベースでは781億4,200万円に対前年比プラス4%（32億6,700万円）となって、数量とは対照的に増加している。

仕入国は中国が圧倒的に多く全輸入の 96%を占め、第 2 位の台湾は僅か 3.5%にとどまっております、両国以外の国は全て合計しても 1%に満たない。

輸入車の平均単価（CIF：運賃保険料込み価格）は 8,650 円で、前年よりも 853 円のアップとなっているが、これは中国における金属材料の高騰や労働条件の改善による人件費アップ等の影響で中国車の製造価格が上昇していることが最大の要因だが、最近の国内市場におけるスポーツ車の需要増を反映して、台湾や欧米からの高価格車の輸入が増加していることも一因とみられる。

表-4 仕入国別輸入状況

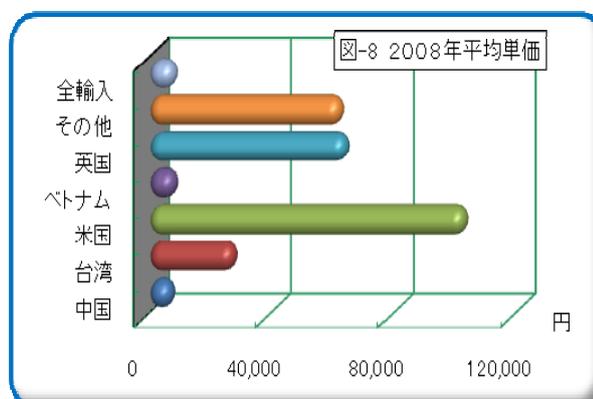
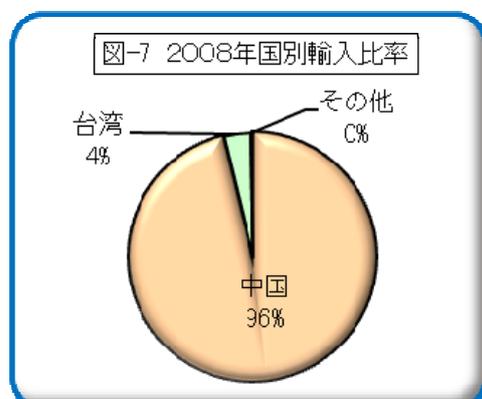
(単位:数量=千台、金額=百万円、平均単価=円)

国名	2004年	2005年	2006年	2007年			2008年		
	数量	数量	数量	数量	金額	平均単価	数量	金額	平均単価
中国	8,604	8,813	8,948	9,276	66,332	7,151	8,694	67,834	7,803
台湾	510	308	361	300	6,845	22,060	317	8,917	28,111
米国	9	10	10	10	980	102,727	7	750	103,805
ベトナム	2	2	0	3	17	5,043	6	54	8,801
英国	1	1	1	2	135	78,808	2	149	64,825
その他	12	10	19	12	566	46,720	8	438	63,040
合計	9,138	9,144	9,339	9,603	74,875	7,797	9,034	78,142	8,650

統計出所:財務省・貿易統計

(注1)千未満を端数処理したため、各国の和と「合計」が一致しない場合がある

(注2)電動アシスト車は含まない



車種別では、軽快車が 4,107 千台と全輸入の半分近く (45%) を占めて最も多いが、前年に対して 8% (375 千台) の減少となっている。軽快車に次いで多いのが 3,132 千台の子供車・幼児車で、この車種も軽快車と同様に前年を僅かに下回っている。

軽快車及び子供車・幼児車以外では、ミニサイクルが 158 千台と対前年比 26%減、対 04 年比では 67%減と大幅に減少している。

対照的に増加傾向にあるのがマウンテンバイクと、スポーツ車及びBMX等を含む「その他」で、前者は 297 千台で対前年比 3%増、後者は同 6%増となっている。増加の要因は、国内市場におけるスポーツバイク需要の拡大により、欧米の人気ブランドの OEM 生産基地となっている台湾からの輸入が増加したためである。

表-5 車種別輸入状況

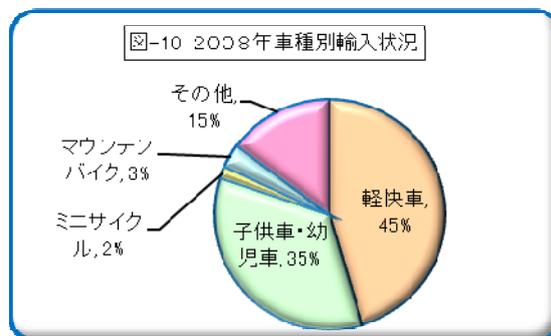
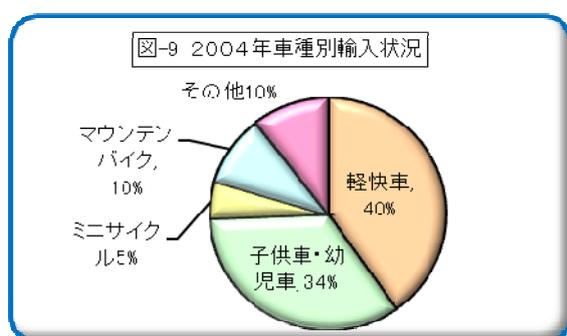
(単位:数量=千台、金額=百万円、平均単価=円)

車種	2004年	2005年	2006年	2007年			2008年		
	数量	数量	数量	数量	金額	平均単価	数量	金額	平均単価
軽快車	3,675	4,000	4,248	4,482	32,290	7,205	4,107	32,050	7,804
子供車・幼児車	3,125	3,198	3,370	3,355	21,182	6,314	3,132	22,062	7,044
ミニサイクル	477	278	263	214	1,929	9,018	158	1,768	11,190
マウンテンバイク	904	576	376	289	4,674	16,159	297	5,261	17,714
その他	957	1,092	1,082	1,263	14,800	11,715	1,340	17,001	12,687
計	9,138	9,144	9,339	9,603	74,875	7,797	9,034	78,142	8,650

統計出所:財務省・貿易統計

(注1)千未満を端数処理したため、全車種の和と「合計」が一致しない場合がある

(注2)平均単価は、表中の金額及び数量の数値により算出したものである



5. 出荷

出荷台数(注)は、10,128千台で、対前年比6%(613千台)減となった。99年から04年まで右肩上がりに増加を続けたが、それ以後は07年を除き漸減傾向にある。

車種別比率をみると、軽快車が47%と最も多く、次いで子供車・幼児車が31%であり、これら2車種で全体の約8割を占めている。それ以外の車種は、スポーツ車、BMX及び一輪車等が区分されている「その他」の11%を除き、いずれも3~4%にとどまっている。

(注) 出荷統計が整備されていないため、本稿では生産と輸入の数量を合計した数値をもって出荷台数としている。なお、一般的に国産には輸出分が含まれるが、「2. 輸出」で述べたように我が国の自転車輸出の殆どが中古車であるため、出荷台数の算出に当たって輸出数量は無視している。

表-6 車種別出荷状況

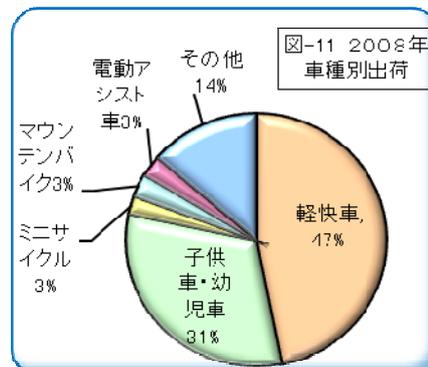
(単位=千台)

車種	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
軽快車	5,363	5,325	5,124	5,201	4,754
子供車・幼児車	3,326	3,305	3,422	3,394	3,178
ミニサイクル	733	455	345	292	234
マウンテンバイク	922	605	401	295	301
電動アシスト車	233	224	236	248	274
その他	1,016	1,156	1,146	1,309	1,388
合計	11,593	11,070	10,674	10,739	10,129

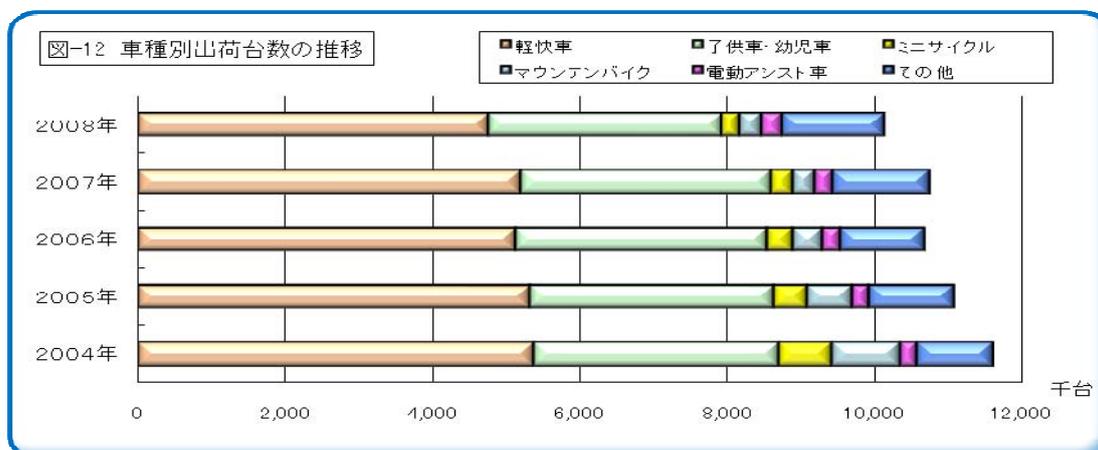
統計出所:経済産業省・機械統計及び財務省・貿易統計

(注1)千未満を端数処理

(注2)電動アシスト車は国内生産分のみ



04年～08年の車種別出荷状況は図-11 のようになっており、全体的な出荷量の漸減傾向は、5割を占める軽快車の減少が大きく影響しているほか、ミニサイクルとマウンテンバイクの低減もその要因となっている。



以上